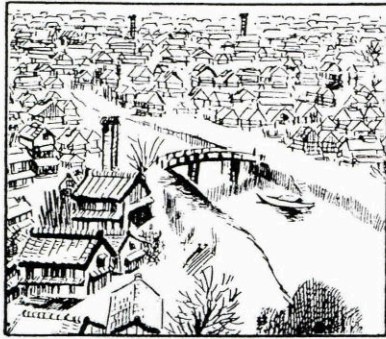


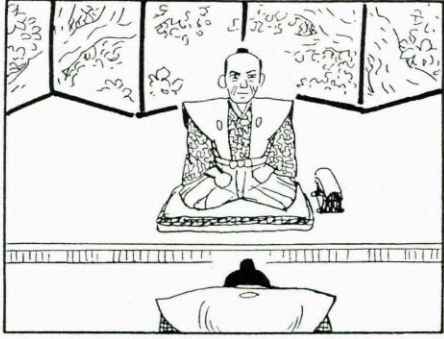
これが幼い時から耳にしていた富士のお山か

百戦は一見に如かずとはよく言ったものだ
たしかに大きいがほどではない

来て見れば聞くより低い富士の峰
釈迦も孔子もかくやあるらん
そば近くに来てみるとうけに聞いていたより富士山は低い
お釈迦さまや孔子さまも偉いお方と聞いていたがこれと同じようなものだろう
一見すると考者の思いあがりともとれる歌ですが自分もやれば出来るという清風の気概があらわれています



江戸に着いた清風は毛利氏と姻戚関係にあたり時の幕府首座老中、松平定信公にお目にかかる機会ができました



あの天明の飢饉のときに天下をその苦しみから救い
寛政の改革をすすめた大政治家、松平定信公！
清風は自作の漢詩を求めました

清風とは君かうわさはよく耳にしているぞよ

定信公は詩を讀み長州情勢などを話してみて清風のしかりした考え方、物を見る目の鋭さに感心しました

村田清風：将来の日本を背負って立つ大人物になる男だ！



清風 どうした元気がないぞ

いえ……義兄さん
私は定信公にお目にかかり国内情勢の一端にふれ人間的な未熟さなどまだまだ勉強のたらない田舎武士であることに気がされました

うむ世の中は広い
長州の片田舎にこもっていたのではいけません、たつても井の中の蛙だ

お前にこの四か月の旅は無駄ではなかったな

今の長門市湯本に大寧寺という禅宗の寺があります。この寺に当時、素明和尚という学問を修めた和尚さんがいました

寸暇を惜しんで図書館の書物を読みあさっている

それにいつかよい師を得て深らない所を補い、一層考え方に磨きがかかってきた

君の食欲も磨きがかかってきたね

自分の足で山野を歩き地理や歴史、よその土地のくわしさを調べている

清風は学問の上で疑問があると和尚を訪ねて教えを求めました
また今の徳山市に役藍泉という学者がいました
その人には詩文や経書を学び

防府市大道の汰庄屋上田不味尾には農業経営について教えを授けました

二十四歳で清風は明倫館御書物助手に選ばれ
二十六歳の退館の日まで意欲的に文武の修業にうちこみました

（以下次号）